

2015年1月16日

KES審査登録事業者：最高責任者様

「京都市生物多様性プラン」に基づく KES エコロジカルネットワークについて

特定非営利活動法人KES環境機構
専務理事 津村昭夫

拝啓 ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素はKES活動につきまして格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、最近環境問題の一環として“生物多様性”の取組みが全国的に広がっています。実は、京都の伝統的文化もこの“生物多様性”と密接に関わっています。例えば葵祭りと“フタバアオイ”、祇園祭と“チマキザサ”、五山の送り火と“アカマツ”等々。ところが近年の環境破壊や外来種等の混入などによりこれらの“フタバアオイ”、“チマキザサ”、“アカマツ”等々は「絶滅危惧種」になりつつあり、京都の伝統文化の継承が難しくなりつつあります。このように“生物多様性”は、単に文化の継承問題だけではなく、人間の安全で豊かな暮らしを支える基盤であることから、京都市では2014年3月に「生物多様性プラン」を策定し、その取組みを推進されることになりました。

このため、KESにおきましても、京都市内で約1250件のKES審査登録事業者様のネットワークを活用し、この「京都市生物多様性プラン」の取組みに協働していくことにしました。

まず昨年7月から、20数団体のKES審査登録事業者様にご協力いただき、既に都会の中でのグリーン化の社会実験を推進されている京都駅ビル開発様（KESステップ2SRの取組みとして「緑水歩廊」を設置）と同じく梅小路公園の「みどりの森」の区間の「緑の回廊ネットワーク」から活動をはじめ、一定の成果を得ています。

そこで今年度からは、京都市域全体に「KESエコロジカルネットワーク」を推進することにしていきますので、京都市内の多くのKES審査登録事業者様のご参加をよろしくお願いいたします。

なお詳細な内容につきましては、「KESホームページ」(<http://www.keskyoto.org/>)に掲載していますのでご参照ください。

〔備考〕

1. お申し込みは、下記「申込用紙」に必要事項をご記入いただき、4月30日（木）までに、下記アドレスへご送信ください。

2. 具体的には、下記日程で説明会及び育成実習を予定しています。

日時：①説明会：2015年5月29日（金）、13:30～16:30

②育成実習：2015年6月19日（金）及び6月26日（育成種ごとに分け実習。）

詳細は後報いたします。）

会場：京都工業会館（京都市右京区西京極豆田町2番地）

3. 本取組みに参加していただきますと、KES（またはKESステップ2SR）の環境改善目標（SR課題）の一環として活動していただけます。

4. 本件に関するお問い合わせ先：NPO法人KES環境機構

TEL：075-321-4767 FAX：075-322-6901 E-Mail：kes-ems@keskyoto.org

〔参考〕「エコロジカルネットワーク」：野生生物が生息・生育する様々な空間がつながる生態系のネットワーク

お手数ですが、下記用紙に必要事項（_____部分）をご記入いただき、4月30日(木)までにご送信ください。

K E S環境機構事務局 行

E-Mail :kes-ems@keskyoto.org

FAX:075-322-6901

2015年度の、「KES エコロジカルネットワーク」に参加します。

御社名 _____

ご芳名

最高責任者様 : ご所属(職位) _____ ご芳名 _____

(連絡) ご担当者様 : ご所属(職位) _____ ご芳名 _____

TEL : _____ FAX : _____

E-Mail : _____

ご希望育成種と数量

- ①又は②（両方も可）は、必須とします。
- ③・④（両方も可）は、ご希望により選択可能です。
 - ①フタバアオイ : 数量() セット
 - ②フジバカマ : 数量() セット
 - ③ヒオウギ : 数量() セット
 - ④キクタニギク : 数量() セット

注：上記①～④の育成種は、苗株数に制限がありますので、ご希望種は先着順で締め切らせていただく場合がありますので、ご了承ください。

以上

環境改善目標1:緑化活動(希少種の生息域外保全)で栽培に取り組む植物

1年目の参加事業者は、**A**または**B**(両方も可)を必須とします。**C・D**(両方も可)は希望する事業者が選
択できます。

栽培セットの経費は、京都ゆかりの希少種保全のための事業に活用されます。

A フタバアオイ (ウマノスズクサ科 多年草)



1400年続く葵祭に欠かせない植物ですが、環境の変化で激減しています。双葉の間に、小さな赤い花が下向きに目立たないように咲きます。NPO法人「葵プロジェクト」(上賀茂神社内)によって保全繁殖が図られています。

(京都府レッドリスト:記載なし)

◆**育て方**:木かげ、軒下などの半日陰。乾燥や強い日射を嫌います。明るい室内でも可能。

◆**花期**:3月~5月

◆**ゴール**:上賀茂神社に株を返納していただくと、「葵祭」で使われます。

◆**栽培セットの経費**:

3株+容器等 5,000円

B フジバカマ (キク科 多年草)



源氏物語にも登場する秋の七草の一つで、水辺に育ちます。一般に流通するのは別種。葉は香料となり、海外との渡りをする蝶アサギマダラが蜜を好むことでも知られます。KBS京都・緑化協会などが保全に取り組んでいます。

京都府レッドリスト:絶滅寸前種

◆**育て方**:日当たりを好みます。夏場は水を十分にやります。風通しに注意します。

◆**花期**:**(鉢植)**9月下旬~10月

◆**ゴール**:希望する事業者は梅小路公園で実物展示(または写真展示)していただきます。

◆**栽培セットの経費**:

5株+容器等 5,000円

C ヒオウギ (アヤメ科 多年草)



鮮やかな朱色の花が祇園祭に合わせたように咲き、厄除け・魔除けとして鉾町などに飾られます。葉は扇が開いたような形です。タネは漆黒で、「ぬばたま」「うばたま」の別名があります。一般にはこれより背が低い変種(ダルマヒオウギ)の系統が流通しています。

京都府レッドリスト:準絶滅危惧種

◆**育て方**:日当たりを好みます。比較的乾燥にも強い。

◆**花期**:7月中旬~9月

◆**ゴール**:希望する事業者は京都駅ビル「緑水歩廊」、祇園祭で実物展示していただきます。

◆**栽培セットの経費**:

3株+容器等 3,000円

D キクタニギク (キク科 多年草)



京都の東山を流れる菊溪川の河川敷にかつて自生していたことが和名の由来です。江戸期まで川の周辺はキクの名所でしたが、現在は環境の変化で東山に自生は確認できません。晩秋に小さな明るい黄色の花を多数咲かせます。

京都府レッドリスト:絶滅危惧種

◆**育て方**:日当たりを好みます。風通しに注意します。

◆**花期**:10月下旬~11月

◆**ゴール**:希望する事業者は京都駅ビル「緑水歩廊」で実物展示していただきます。

◆**栽培セットの経費**:

3株+容器等 3,000円

※ 栽培指導協力:公益財団法人京都市都市緑化協会、特定非営利活動法人葵プロジェクト



われら緑の応援団



KES エコロジカル
ネットワークプロジェクト

～生物多様性の問題に取り組む～



に、調達しにくい生物種が近年多くなってきました。こうした課題に対応するため、京都市では、京都ならではの自然環境や伝統文化を後世に受け継いでいくため、目指すべき生物多様性保全の方向性を示す「京都市生物多様性プラン」を2014年3月に策定しました。

これを受けネットワークでは、身近に取り組める活動として、希少になりつつある在来の草花「和の花」(フタバアオイとフジバカマ)を育て、生物多様性についての理解を深めることから始めました。

地球温暖化と並ぶ大きな環境問題である生物多様性(※1)の危機に取り組むため、KES環境機構など関係団体が協力し、「京都市生物多様性プラン」(※2)の実現に向けたプロジェクト「KESエコロジカルネットワーク」をこの夏にスタートさせました。緑化協会も、和の花保全の取り組みを進めるため、専門家の派遣や仲介、植物の苗の提供等の協力を行っています。



葵祭の帝王代と女人列。祭列のすべての人の衣冠をフタバアオイで飾る。(写真提供:上賀茂神社)

対象事業者を一部エリアに限って参加希望を募り、7月4日の京都工業会館(右京区)での事前説明会では、①都市の生物多様性確保の重要性、②自生地以外の場所での希少植物を栽培する際の注意点などの講義を行いました。また、葵祭に欠かせないフタバアオイの保全を行うNPO法人「葵プロジェクト」(上賀茂神社内)の村松晃男事務局長が、活動が人と自然の関係を

見つめ直す機会となっていることなどの意義を説明しました。説明会を受け、18の事業所が2種の栽培保全に取り組む意思を表明、同月11日、栽培講習(同所)を受けました。中には植物に慣れていない参加者もいましたが、講習での表情は一樣に真剣で、関心の強さを示しました。これらの鉢は各社に持ち帰り、育てながら社内広報などで生物多様性への理解の普及を図ります。

来年度、ネットワークは和の花の種数を増やしたり、建物敷地の緑化を推奨していきます。将来的には、巨大なビルながら緑化に取り組む京都駅ビルと、ビオトープ「いのちの森」や京

都水族館がある梅小路公園を結ぶエリアを中心として、緑化施設や緑地を結び、さらに市内全域に広げていくという構想です。KES環境機構の津村昭夫専務理事は、「希少種の栽培に限らず、企業独自の緑化を進めていただくことで、実質的な緑のネットワークにつながりたい」と話しています。



KES エコロジカル
ネットワーク構成団体



◆京のアジェンダ21フォーラム(事務局) ◆KES環境機構 ◆京都市都市緑化協会 ◆京都駅ビル開発 ◆京都市 ◆KESとは

京都環境マネジメントシステムスタンダード(Kyoto Environmental Management System Standard)のこと。気候変動枠組条約COP3をきっかけに、京都市等が呼び掛け設立された「京のアジェンダ21フォーラム」から発足しました。中小企業でも環境改善に取り組みややく、現在、京都市内で約1250社、全国では約4,400社が登録。NPO法人のKES環境機構(右京区)が審査登録団体。KES環境機構(連絡先 075-321-4767) <http://www.keskyoto.org/index.html>

※1 生物多様性
ある区域における全ての生物の間の変異性。①生態系、②種間、③種内(遺伝子)の3つのレベルの多様性があるとされます。

※2 京都市生物多様性プラン(2014年3月)

京都の生物多様性は、木材や食料の供給、水害の発生を予防する等、人々の安全で豊かな暮らしを支えるとともに、食、祭祀、庭園、茶道、生け花などの様々な伝統文化を育んできました。しかし、里山の荒廃やチマキザサなど固有生物の減少等、自然環境の保全や伝統文化の継承が揺るがすような生物多様性の課題が発生する中、体系的・総合的な取組の推進が求められていました。そのため、「京都の豊かな文化が世代を超えて継承されるように、全ての人が生物多様性の恵みを生活の一部として再認識し、地域資源を生かした持続的な暮らしや経済活動が行われる社会」を目指し京都市生物多様性プランが策定されました。(問合せ 京都市環境管理課 075-222-1395)

生物多様性保全の取組を進めています！

京都市 生物多様性プラン

DO YOU KYOTO?

環境にいいことをしていますか？